

## 海外の話題

# ロンドン 10 年前比較

農林中央金庫 ロンドン支店 梅垣 健

約 10 年振りにロンドンに戻ってきた。2 回目の英国赴任だ。この間、ロンドン・オリンピックの開催等もあり、当時のロンドンと比べ、意外にも大きく変わった点が多いので、少し触れてみたい。

### 【人の混雑、バブル期のような市内】

繁華街やオフィス街を歩いていると、人の数が増えた気がする。少しではなく、2～3割増えた印象だ。統計を見ると、確かにロンドンの人口はここ10年で百万人ほど増加し、2015年時点で過去最多（860万人）に達している。移民も増えたようだ。

上を見上げると、これまで見たこともない斬新でモダンなビルがそびえ立つ。街のあちこちでビル建設用のクレーンが立ち並ぶ。その数の多さはバブル期を思わせる。なるほど市内の住宅価格も当時の2倍程に高騰している。

### 【和食の広がり】

日本食のお店が増えた（約200店→約500店）。当時は日本人相手の寿司屋、居酒屋等が中心だった。今はローカルの人をターゲットとするラーメン店、ファスト・フード店から超高級和食店まで、多種多様な日本食を楽しめる。味も良くなった（ただ、値段は今も昔も高い）。

ラーメン店はここ数年で急速に広がり、ガラス張りのファスト・フード店には気軽にテイクアウトできる寿司セット、カツカレー等が並ぶ。さらに、高級店も増えた。星付きの寿司屋をはじめ、JA全農が欧州で初めて出店した和食レストラン「TOKIMEITE」は上質な日本の和牛や食材を売りに人気を博している。和食の急速な広がりを実感する。

### 【法人税率の低下と企業誘致】

日本では法人税率の議論が盛んだが、当地の法人税率は既に20%。ここ10年で10%下がり、さらに一段引き下げの方向だ。当時はポンド高とともに製造業を諦め、サービス産業に軸足を移すような勢いだったが、今では首相自ら製造業の誘致に積極的で、鉄道や自動車分野をはじめとする日系企業の投資を大歓迎している。中国からの投資にも力が入る。大胆な経済政策の転換ができたものだ。英国経済は好調だ（2015年GDP成長率見込み2.5%）。

### 【EU、ユーロ圏の影響力の高まりと国民投票】

英国はEU加盟国（28カ国）だが、単一通貨のユーロ圏（19カ国）には参加していない。従って本国通貨は今もポンドだ。歴史的にも欧州大陸と一定の距離感を保ってきた。ところが最近では拡大するEUやユーロ圏の影響力が大きくなってきた。移民受入れと社会保障負担、EU条約等の共通ルールの縛り（立法にかかる主権のEU委譲）等。いよいよ英国は2017年末までにEU離脱の是非を問う国民投票を実施する。意外にも僅差の勝負だという。大きな時代の分かれ目に差し掛かった。

### 【金融規制の強化】

当時のソフトタッチな金融規制から一転、リーマン危機の反省を経て、世界に先駆けて様々な規制が導入された。自己資本規制強化、ストレステスト等のリスク管理の枠組み強化、金融機関経営者の個人責任の明確化（シニア・マネジャー制度等）等々。今も新たな規制対応に追われる。いったいどこまで行くのだろう、そろそろ転換点か。

こうした変化を感じる一方、さすが歴史と伝統のお国柄か、変わらぬ英国といったものも多い。しばし腰を据えてこの国の動きを見ていきたい。